（日刊） 第21045号 （昭和19年５月30日第三種郵便物認可）

今日の紙面
「ウッドショック」再び関心 ……２面
ソフトウェアＳ 大幅続伸 ……２面
ＩＰＯ社長会見 ラストワンマイル……２面
ホンダ 30年ぶりＦ1王者 ……２面
外国株「Global Eye」 …最終面

TＯＰＩＸ週足３カ月(直近)

日本証券新聞
Nihon Securities Journal since 1944, a member of JIA
2021年[令和３年]
12/14
火曜日（先負）
1カ月4,988円／1部240円

日経平均 28,640.49 +202.72(+0.71%)

日本証券新聞 Digital
www.nsjournal.jp
発行所©日本証券新聞社2021 〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町２－16－１ 土曜・日曜・祝日付は休刊 日本証券新聞 Facebook https://www.facebook.com/nsjournal 販売に関するお問い合わせ TEL 03-6661-9415 記事に関するお問い合わせ TEL 03-6661-9419（午前10時から正午まで）

「個人復権」10年ぶり買い越しへ
クリスマス休暇へ存在感高まる 年末年始の季節性とは

12月の先物・オプションSQ（特別清算指数）算出日も前週末に通過。13日で年間立会の約95%を消化し、そろそろクリスマス休暇が意識されてくるタイミング。外国人の売り越し基調が続くなかで、存在感を高めつつあるのが個人投資家だ。

直近発表の12月第1週（1～3日）は、現・先合算で8273億円（先物7072億円）の外国人大量売り越しがひと際目立ち、配当金再投資を交えた投信、年金買いが主にこれを吸収する格好となったが、個人も3週連続で1000億円を超える買い越しを記録している。実は、これは非常に珍しい現象だ。

特に直近2週は信用取引、現物取引ともに買い越し。個人売買を信用と現物に分けて9月以降の14週間を見ると、信用での買い越しが12週に及ぶ一方で、現物による買い越しは4週だけ（今年に入って47週中11週）。もちろん、新規上場株を市場で売った場合、売りのみがカウントされる（創業者の保有株市場売却についても）というテクニカル的な要因を含むとはいえ、個人は〝恒常的な売り方セクター〟と見なされてきた。実際、個人は昨年まで9年連続売り越しだった。

もっとも、このままいけば今年は10年ぶりの買い越しに転じる可能性が高まっている。過去にもバブル崩壊の1990年や、リーマン・ショックの2008年、東日本大震災の11年など急落年には買い越してきたが、「TOPIX上昇年の個人買い越し」となれば83年以降では初めて、との声も聞かれる。「貯蓄から資産形成へ」の掛け声がようやく結実しつつあると言えようか。

それでは〝個人復権〟で浮上が期待されるのは何か。みずほ証券は今週のウィークリーレポートで「個人投資家の日本株売買状況」を特集。「個人投資家保有比率ファクターとの相関が高い銘柄」を掲げている（表参照）。「キャピタルゲイン狙いばかりでなく、株主優待や配当の獲得を目的に株式を買うので、外国人とは異なる業種を好む傾向がある」とされる通り、上位には外食など優待人気株が並ぶ。

今月権利付きの12月決算銘柄といえば、**すかいらーくHD（3197）**や**ペッパーフードサービス（3053）**が挙げられる。

ちなみに、昨年12月に発行された野村証券レポート「個人投資家売買動向の年末年始の季節性」では、個人は「年末にかけて損益通算目的の売りを行う傾向」「マザーズ指数も年末が近づくにつれて下落」「年明け後に再び資金を株式市場に向ける動き」などを指摘していた。11月下旬からのマザーズ指数低迷の背景となった可能性もある。

まだしばらくは節税売り懸念も伴うが、いずれにせよ、年明けに向けては個人好みの銘柄に活躍期待が膨らんでこよう。

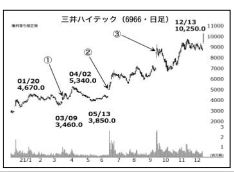
個人投資家保有比率ファクターとの相関性が高い銘柄

銘　柄	コード	個人持ち株比率	銘　柄	コード	個人持ち株比率
すかいらーくＨＤ	3197	72.3%	アンジェス	4563	47.5%
吉野家ＨＤ	9861	67.1%	マクドナルド	2702	47.3%
ＳＲＳＨＤ	8163	65.5%	ＴＡＫＡＲＡ＆ＣＯ	7921	46.7%
コロワイド	7616	61.5%	柿安本店	2294	46.4%
サガミＨＤ	9900	59.7%	日本ＫＦＣＨＤ	9873	46.3%
神姫バス	9083	56.9%	ＡＮＡＨＤ	9202	46.0%
木曽路	8160	54.4%	極　洋	1301	45.4%
那須電機鉄工	5922	52.9%	コメダＨＤ	3543	45.4%
ペッパー	3053	52.1%	ＢＲＵＮＯ	3140	44.9%
アトム	7412	51.8%	モスフードサービス	8153	44.8%
神戸電鉄	9046	51.6%	ＪＦＬＡＨＤ	3069	43.7%
リンガーハット	8200	50.6%	オンコリスバイオ	4588	43.5%
歌舞伎座	9661	50.1%	ラックランド	9612	43.1%
ＡＦＣ－ＨＤ	2927	47.9%	山陽電気鉄道	9052	43.0%
ＷＤＩ	3068	47.8%	常磐興産	9675	43.0%

三井ハイテック 増額好感
3回連続「決算発表→S高」

好決算発表を受けた**三井ハイテック（6966）**が1万円大台突破で5週ぶりの実質最高値。朝方8・5%高で寄り付いた後に買い進まれ、ストップ高（17・1%高）に張り付いた。10日引け後発表の1月期第3四半期（2～10月期）は42・0%増収、5・0倍営業益。同時に、通期見通しを従来の「38・4%増収、3・0倍増益」から「41・7%増収、3・4倍増益」へと増額し、配当も年27円から年64円へと大きく引き上げている（前期は年21円）。半導体用リードフレームや伝道者向け駆動・発電部品「モーターコア」などの好調を受けたものだ。

今年の決算発表翌日は、①3月16日が一時16・3%高②6月14日が16・3%高（ストップ高）③9月13日が21・1%高（同）。次回の来年3月発表も注目か!?



注目テーマ 追跡
メタバース関連
AIメカテック
「VRゴーグル」用に大口受注獲得
中・台・日で引き合い増

メタバース（仮想空間）サービスが拡大すれば、AR（拡張現実）/VR（仮想現実）用ディスプレイ市場が拡大する――とこのほど野村証券がレポート。LTPS液晶ディスプレイのほか、AR/VR用ヘッドマウントディスプレイに使われる「マイクロディスプレイ」も市場拡大が期待されている。

AIメカテック（6227・2部）はマイクロディスプレイを製造する装置を手掛けており、11月下旬に大口受注の獲得を発表した。海外の大手ディスプレイメーカーおよびCMOSメーカー複数社から計15億円受注したという。このほか国内メーカーなどとの商談も進められている。

同社は液晶製造プロセスにイノベーションをもたらすODF（ワン・ドロップ・フィル）技術を世界で初めて実用化した実績を持ち、液晶パネル製造装置を手掛けてきた。マイクロディスプレイはその延長線上にあり、液晶貼り合わせ技術とインクジェットによる塗布技術が顧客企業に評価されたようだ。マイクロディスプレイ製造装置の受注は始まったばかりで、今2022年6月期、来期はそれぞれ数十億円規模の受注獲得が期待される。

足元受注は同製造装置に加え、半導体製造の後工程で用いられる「はんだボールマウンタ装置」への引き合いも引き続き旺盛。液晶製造装置も、巣ごもりによるテレビやPCの需要拡大を受け、中国企業による大型投資が続いたことから堅調と、全般順調に推移している。

通期では売上高170億8900万円（前期比6%増）、営業利益11億7900万円（同16%増）を計画。時価はPER9倍台、PBR1倍弱、配当利回り3・5%。

相場の福の神
真の成長企業はコレだ！
〈第62回〉

ジーニー（6562・東マ）
技術力で課題クリアし、高成長持続へ

まいど！「相場の福の神」こと藤本誠之です。年間300社を超える上場企業のトップにインタビューを行っていますが、本連載では、その中から厳選した「真の成長企業」をご紹介していきます。

日本発の世界的なテクノロジー企業

東京都新宿区西新宿に本社がある日本発の世界的なテクノロジー企業をつくりたいという思いの下、2010年4月に設立された会社です。

3つの事業分野

インターネット広告に関わる「広告プラットフォーム事業」とマーケティング活動の効率化につながるソフトウエアを提供する「マーケティングSaaS事業」と、国内のプロダクトを東南アジアを中心とした海外に展開する「海外事業」の3つの事業分野を持っています。

広告プラットフォーム事業

広告収益を最大化するアド・プラットフォームである「GenieeSSP」は、ジーニーの独自技術と国内最大規模のインプレッション数でメディアの広告運用をフルサポートしており、取引実績2万・社国内シェアナンバーワン・年商70億円の事業です。

「GenieeDSP」は、保有する国内最大規模の広告在庫を活用し、高品質なオーディエンスを低単価で集客可能です。約800億IMPs/月の買い付けができます。広告社数500社・国内ナンバーワンのデータ保有量が強みです。

この2つが広告プラットフォームの主力サービスなのですが、2017年に東証マザーズに新規上場してから、様々な規制強化などの影響で、赤字に転落するなど厳しい状況となりましたが、様々な技術改良などによって対応し、前期に黒字転換。今期は、この事業で過去最高益を更新する状況で好調を取り戻しており、来期も大きな成長の可能性が高そうです。

ストック型収益

広告プラットフォーム事業が不調だった時に、新規ビジネスとして、サブスクリプションのストック型収益を、自社開発・M&Aを駆使して、立ち上げています。マーケティングオートメーションツール「MAJIN」や、チャットボット「Chamo」などで、マーケティングに関するソフトウェアを開発・販売しており、既に国内導入実績1万社以上、売上高前年比120%増加するなど高成長しています。ずっと、先行投資などで、赤字ビジネスでしたが、今期の下半期には、黒字転換が予想されています。

（福の神ポイント）

ジーニーは、高成長して新規上場した後で、ネット広告の様々な規制強化などの問題で、広告プラットフォーム事業が急失速し、赤字転落しました。しかし、技術開発を進め、問題をクリアして広告プラットフォーム事業が急回復、今期はこの分野で過去最高益更新が望め、来期も大きな成長の可能性があります。

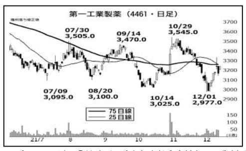
苦しい時に、2本目の柱として、サブスクモデルでストック型収益が期待できる「マーケティングSaaS事業」を立ち上げ、ようやく今期の下半期には黒字転換できそうです。損益分岐点を超えれば、一気に収益が急拡大するフェーズとなりそうです。

2本柱で、来期は大きな収益拡大が期待できるため、2022年に活躍必至の銘柄になりそうです。

藤本誠之（ふじもと・のぶゆき）
ラジオＮＩＫＫＥＩなど各種メディアでおなじみの証券アナリスト。財産ネット企業調査部長。阪神タイガースファン。オールアバウト株式ガイド。

この株 王手
第一工業製薬（4461）
アナリスト評価高まる割安株
材料多彩 仕手性復活の目も

チャート上で、10月28日の大陽線は立会中の好決算発表を受けたもの。その後、上げ幅を帳消しにしているが、前週８日付で、いちよし経済研究所が時価の２倍近い6300円目標（6000円から引き上げ）を掲げるなど好実態へのアナリスト評価はむしろ高まる方向にある。レポートでは、「既存ビジネスの収益性が著しく改善。来2023年３月期には光硬化樹脂材料の復調に期待」とされ、今期営業13.7%増益に続いて、来期17.6%増益、再来期18.3%増益と試算している。そもそも今期予想ベースでもＰＥＲ評価は１ケタにすぎず、次の四半期決算発表に向けて見直し余地は大きい。



今でこそ「確かに割安だけど地味で面白味に欠ける銘柄」扱いされているが、思えば、バブル崩壊の始まった1990年１～３月には（わかもと製薬やオリジン電気などとともに）全般暴落地合い下で一大仕手相場に発展した経緯もある株だ。

それらしい手掛かり材料も備える。今春には、同社の健康補助食品に含まれる「ナトリード」に認知機能改善効果が報じられた。また、日本が強みを発揮できる有望分野である木材由来のセルロースナノファイバーにおいても、特許出願件数は日本製紙、大王製紙、凸版に次ぐ４位（５、６位に中国の大学、10位は東大）。東大と共同開発したインクは三菱鉛筆に採用されている。（丈）

ＰＥＲ＝9.6倍
ＰＢＲ＝0.94倍
配当利回り＝2.16%

DATA BOX（13日）

東証概況 日経平均は反発。日銀短観は予想を下回ったが、先週末の米国株反発と機械受注を好感。レーザーテックが反発し、三井ハイテックは今期３度目の業績上方修正でストップ高。川崎汽船など海運も高い。中国の中央経済工作会議を受けて、安川電機が上昇。一方、リクルートは凸版印刷による保有株一部売却観測で続落。トヨタは部品不足による一部生産ライン稼働停止で下落。エイチームは第１四半期営業赤字で急落。

日経平均	28,640.49	△202.72
ＴＯＰＩＸ	1,978.13	△2.65
出来高	９億5,579万株	
	（10日 11億1,409万株）	
売買代金	２兆2,225億円	
時価総額	726兆393億円	
値上がり 918銘柄	値下がり 1144銘柄	
変わらず 121銘柄		
新高値 30銘柄	新安値 48銘柄	
騰落レシオ	75.32%	△2.35

日経平均サイコロ（５勝７敗）
●●●○●○●○○●●○
（以上東証１部 大引け）

ＪＰＸ日経インデックス400 17877.14 △41.06

新興概況 マザーズは３日続落。霞ヶ関キャピタルは公募増資発表が嫌気されストップ安、イトクロは今期実質大幅減益予想でストップ安。一方、ビジョナルは５日続伸。フロンティアＩは上方修正しストップ高。ＪＡＳＤＡＱはもみ合い。クリエアナブキはＴＯＢが発表されストップ高。ワークマンはBofA証券による２段階格上げで上昇。半面、シーズメンやフェローテック、アイフリーク、ＯＳＧコーポは売られた。

マザーズ指数	1023.66	▼6.88
出来高	9,049万株	
売買代金	1881.51億円	
時価総額	８兆5,320億円	

マザーズ指数サイコロ（３勝９敗）
●●●●●○●○○●●●

日経ＪＡＳＤＡＱ平均	3910.23	△3.35
売買代金	598.18億円	
時価総額	10兆2,440億円	

JASDAQ 平均サイコロ（４勝８敗）
●●●●●○●○○●●○

円相場（14時）	113.48―113.53	
	高値113.26 安値113.56	
10日 ＮＹダウ	35970.99	△216.30
ＮＡＳＤＡＱ指数	15630.60	△113.23
S&P500指数	4712.02	△44.57
米10年債利回り	1.484%	▼0.017

風林火山

心配性か

米長期金利の10年国債利回りは既にピークアウトしたかの印象である。債券市場は既に来年2回の利上げは織り込んでいるとされている。米国株は悲観論が消えてしまっている。今回のFOMC（米連邦公開市場委員会）ではテーパリング加速決定、利上げ前倒しが観測されている中でのこうした金融市場の展開に対して、金融当局者は心の底ではどのように思っているのか▼当初より早期の利上げは、バイデン米大統領の要請であり、支持率の低下している同大統領が早期にインフレ退治に乗り出し、国民の人気回復につなげたいとの思惑があるとされている。その意味ではマーケットのある程度の調整はやむを得ないと考えているかもしれない▼ところが、米国株が勢いづけば同じリスク資産の原油も一緒に上昇する。インフレ期待にまさに油を注ぐ格好となる。インフレを抑えるどころではない。市場のある程度の調整を促し、景気をある程度冷やす狙いがあるはずの金融引き締めの効果が効かないという事態になりかねない▼金融当局が市場に対して〝もっと脅かす必要がある〟（金融引き締め強化）との考え方が頭をもたげなければいいのだが…。（T）

JIA証券 SECURITIES
9月13日(月)始動
業界最高水準のインセンティブをご用意しております
事業拡大につき
『証券外務員・歩合外務員』大募集！
固定の営業スタイルではありません。
ご自身の得意なスタイルを活かした営業活動を行っていただけます。
応募・ご相談は Tel. eメール.HPから
（電話） 03-6280-2256 （eメール） saiyou@jia-sec.co.jp （HP） https://www.jia-sec.co.jp/

私が面接の際に直接、条件等のご相談を伺います。ご希望であれば、土日祝日の社長面接も可能です。
代表取締役社長 佐藤 歩
業容拡大につき オフィスを移転しました
【新住所とアクセス】
東京都中央区新川１-５-１７
（茅場町駅から徒歩４分）